

# 東アフリカ・ケニアの 農業ビジネス探訪

(連載全6回)

2

## 農家の課題は経済と 健康状況の改善にあり

**ケ**ニア、ひいてはアフリカの農業における問題の一つは、農産物の買取価格が低く生産者の自立がむずかしいことである。アジア諸国にくらべると技術レベルや農業機械の普及率も低く、なかなか農家の自立的経営が立ち行かない。

農業への融資プログラムもコーヒーや紅茶のような大規模輸出産業者やその契約農家などにかぎられているため、ケニアの生産者の大半を占める小規模農家は融資を受ける道

も閉ざされている。専業農家の所得は平均すると兼業農家の3分の1以下であり、農業以外に生業のない地方では、貧困のスパイラルからなかなか脱せない。このため国家の食糧生産を担いながらも、飢えや栄養不足に苦しむ農家も多い。

前回紹介したムボゴは、モリンガをビジネスに結びつける上で、この問題を視野に入れることを考えた。ケニアの農家がかかえる問題をモリン

ガ栽培を通して解決できないだろうかと思つたのである。その問題とは大きく分けると経済的問題と健康・栄養の問題であるという。

「コーヒーや紅茶のような換金作物はトウモロコシなどくらべると収益性が高い。しかしこれらの産物は昔から大きな会社によって統括されていて、小規模農家にとっての収益はけつして高くありません。けれども、大手の参入がないモリンガは小規模農家でも栽培できる上、キロ当



モリンガの契約栽培者グループ

作家・翻訳家

**田中 真知** タナカ マチ

1960年東京生まれ。作家・翻訳家。1990年より1997年までエジプト在住。著書に『アフリカ旅物語』（北東部編・中南部編、凱風社）、『ある夜、ピラミッドで』（旅行人）、『孤独な鳥はやさしくうたう』（旅行人）、『美しいをさがす旅にしよう』（白水社）など。



モリンガの木の状態を見る農民



モリンガからつくられた商品の数々

たりの価格はトウモロコシの三倍です。もともと自生していたこともあって栽培もむずかしくないので、参入のハードルも低い。その意味で今後大きな可能性があると思っています」

だが、ムボゴがさらに重要視しているのが、モリンガが農家の健康・衛生に果たす可能性である。国民の50パーセントが貧困層であるケニアでは、農村の栄養状態はけつしてよくない。ケニア全体の乳児死亡率は1000人当たり81人(2008年)と世界でもきわめて高い。ムボゴ自身、ケニア農村の栄養状態がかなり悪いことに気づいていた。

「アフリカ全体に伝えることです。私たちには食事と健康を結びつける文化が欠落しています。日本や中国では、たとえば緑茶を飲むことが健康や病気の予防につながるという文化がありますよね。でも、ケニアでは食事はおなかを満たすものであって、健康とは別だとほとんどの人が思っている。栄養補助用のサプリメントは売っていますが、値段が高くて一般の人たちには買えません」ムボゴはケニアの生産者自身がモリンガを食べることによって栄養状態の改善や食生活についての考え方を変えられないだろうか考えた。国民の食を担う農業において大切な

のは生産者自身がまず健康であることではないか、とムボゴは考えた。

「ケニアでは今でも妊娠した女性がカルシウムを摂るために土や石を食べる文化があります。それは生活の知恵ではありますが、石や土ではなく食物から栄養が取れたらそれがいいんじゃない。モリンガはカルシウム分はもちろん、スプーン2杯分の粉末で一日分の栄養がとれるほど栄養価がある。輸出用の健康食品としての可能性があるのはもちろんですが、むしろまずはそれを国内の生産者、ひいてはケニア人自身の栄養状態向上のために用いるべきではないかと思いました」

輸出向けに特化した換金作物ではなく、国内生産者の栄養状態の改善と収入の底上げ、というムボゴの立てた2つの柱を、ケニア農業省は高く評価した。そして08年以降、ケニア農業省はモリンガ普及のためのサポート活動を行っている。現在、ムボゴはケニア各地の600の農家とコラボレートしてモリンガの契約栽培を行っている。その条件は、生産者自身が収穫物であるモリンガを食事に取り入れて、その栄養的価値を認識してもらうことだという。そのために契約栽培者を招いたセミナーも定期的に開いている。生産者自身が自分の栽培している作物のよさを



ケニア北部トゥルカナ州でのモリンガの普及セミナー

知ることこそが口コミなどの普及の鍵になり、現にそうやって生産者の数はじわじわと増えているという。

アフリカが世界の食糧庫と見られている現代において、輸出向けの大規模農業を進展させることは国家経済にとっては重要だ。しかし、それ以上に大切なのは、国内生産者の経済状況と健康状況をともに改善することだとムボゴは考える。

「生産者が経済的に潤うだけでは不十分だと思っています。農業は食に直接関わっている。食は健康に通じるものでなくてはならない。これまで私たちにも生産者にもそういう発想がなかった。モリンガという新しい農産物をきっかけに、栄養や健康を実現する食文化を創造するというのが、私の願いなんです」